

日本原子力学会 2012年春の年会  
保健物理・環境科学部会全体会議議事次第

日時：2012年3月20日(火) 12時～13時

場所：M会場 工学部2号館 244M講義室 (福井大学)

議 事 次 第

進行：横山委員

- |                            |                |
|----------------------------|----------------|
| 1. 部会長挨拶                   | 占部部会長          |
| 2. 部会表彰について                | 山澤副部会長         |
| 3. 第7期運営小委員会委員(案)とその役割について | 横山委員           |
| 4. 平成23年度部会決算見込及び24年度予算案   | 森泉委員           |
| 5. 部会企画について                | 栗原委員 (代理：横山委員) |
| 6. 部会主催・共催シンポジウム等          | 横山委員ほか         |
| 7. 委員会等報告                  | 各担当委員          |
| 8. 放射線影響分科会の活動について         | 占部部会長          |
| 9. その他                     |                |
| 10. 閉会挨拶                   | 次期部会長          |

以上

## 2011年度 保健物理・環境科学部会賞選考結果

2012.02.23 選考小委員会 決定

2012.03.04 運営小委員会 承認(メール審議)

2011年度 部会論文賞 選考経過:査読時の採点結果に基づき候補を抽出し、採点結果を尊重して選考小委員会の投票により選考。

番号	表題	所属	氏名	掲載情報	選考理由
3	Monte-Carlo simulation using Japanese voxel phantoms to analyze the contribution of particle types and their energy distributions to organ doses upon external neutron exposure	日本原子力研究開発機構	佐藤大樹 Daiki SATOH Kaoru SATO Fumiaki TAKAHASHI Akira ENDO	Journal of NUCLEAR SCIENCE and TECHNOLOGY, Vol. 47, No. 1, p. 62-69 (2010)	日本人ボクセルファントムを用いた中性子被曝線量評価については他に例がなく、本解析手法は既存の技術の組み合わせであるが、被ばく線量評価上重要な新知見とデータを提供するものである。また、動物実験データで得られた中性子のRBEを人に適用しようとする場合に、人とラットの体内の放射線場の違いを考慮すべきことが示唆されており、価値ある論文といえる。
4	Diverse monitoring approaches reveal <sup>14</sup> C dispersion pattern and its impact on the environment around the Tokai reprocessing plant	日本原子力研究開発機構	小嵐 淳 Jun KOARASHI Hiroki FUJITA Hitoshi WATANABE Shuichi SUMIYA	Journal of NUCLEAR SCIENCE and TECHNOLOGY, Vol. 48, No. 1, p. 120-129 (2011)	施設起源C-14環境中移行に関する数少ない実測に基づく研究であり、提供された多種かつ長期にわたるデータはその重要性において優れており、今後多くの論文に参照されることが期待される。また、EMRASのシナリオの基礎データにもなっており、国際的にも評価された。

2011年 部会学術貢献賞 選考経過:選考小委員会委員及び部会員からの推薦がなかったため、該当なし。

2011年 部会講演賞 選考経過:学選考小委員会委員及び部会員からの推薦がなかったため、該当なし。

2011年 部会新人賞 選考経過:選考小委員会委員及び部会員からの推薦がなかったため、該当なし。



## 保健物理・環境科学部会部会賞表彰内規

平成 22 年 9 月 16 日 第 22 回保健物理・環境科学部会全体会議制定

### (目的)

第 1 条 本内規は、「保健物理・環境科学部会規約」第 1 条、第 3 条ならびに「部会・連絡会・支部表彰制度規程」第 1 条に基づき、保健物理・環境科学部会部会賞（以下「部会賞」と称す）の表彰の種類、数、要件および選考方法を定めるものである。

### (趣旨)

第 2 条 保健物理・環境科学部会（以下「本部会」と称す）部会員（以下「部会員」と称す）による優秀な研究発表、継続的な発表等の部会に寄与する発表、学生・若手による将来性のある研究発表を表彰し、保健物理・環境科学分野の発展を促すことを趣旨とする。

### (表彰の種類、数、要件)

第 3 条 表彰の種類、数及びその要件は以下のとおりとする。

#### (1) 論文賞 若干名

部会員の投稿論文で、保健物理・環境科学分野において 完結し優れた成果を含むもの。ただし、学会本体の賞（論文賞、技術賞等）に該当するものはそれを優先し、重複して表彰しない。

#### (2) 学術貢献賞 若干名

部会員あるいは部会員を主要構成員とするグループ等の業績で、長年にわたり継続して学会で成果を発表するなど、本部会の研究領域に対して学術あるいは技術面で貢献したもの。

#### (3) 講演賞 若干名

部会員による学会発表で、発表内容および発表技術が優れているもの。

#### (4) 新人賞 若干名

本部会に属する修士課程までの学生による学会発表で、研究の発展性があり将来性が高いもの。

2 同一の業績に対しては、何れか一つの賞を授賞するものとする。

3 論文賞、学術貢献賞および新人賞については過去 3 年間、講演賞については過去 1 年間の業績を対象とする。ただし、第 5 条に規定する表彰選考小委員会で特別な事由があると認められた場合は、それ以前の業績を対象とすることができる。

4 第 1 項の種類他に、本部会が共催する研究集会等における研究発表で内容および発表技術が優れたものについて、第 2 条の趣旨に合致する場合は部会賞に準じるものとして表彰できるものとする。この場合、賞の名称、数、要件および選考方法について予め表彰選考小委員会で承認を得るものとし、第 4 条の適用を除外することができる。

(表彰時期)

第4条 毎年の「秋の大会」において賞状授与等により表彰することとする。ただし、「秋の大会」において表彰が行えなかった場合は、翌年の「春の年会」で表彰することができる。

(表彰選考小委員会)

第5条 表彰対象者(団体)の選考は表彰選考小委員会が行い、運営小委員会に諮り決定する。

- 2 表彰選考小委員会は、部会長、副部会長1名、企画主幹事、学会プログラム編成ワーキンググループメンバー(責任委員1名)、編集委員(責任委員1名)、総務主担当、および必要に応じて部会長が指名する運営委員若干名により構成する。
- 3 表彰選考小委員会に表彰選考小委員会委員長を置き、部会長が兼ねる。表彰選考小委員会委員長は選考事務を司る。
- 4 表彰選考小委員会に表彰選考小委員会委員長の指名により幹事を置くことができる。
- 5 選考小委員会の構成員の任期は運営委員の任期と同じとする。
- 6 選考の方法および表彰の方法の詳細については、「部会賞選考方法に関する覚書」として表彰小委員会が決定する。

(選考における配慮事項)

第6条 表彰の趣旨に鑑み、各賞の選考に当たっては、部会の将来を担う若手および学生に配慮する。

(選考結果報告)

第7条 表彰決定後、選考過程および選考結果を理事会へ報告する。

(改定)

第8条 本内規の改定は、運営小委員会の発議に基づき、部会全体会議で審議し、部会等運営委員会および理事会に報告するものとする。

#### 附則

- 1 この内規は平成22年10月1日から施行する。
- 2 改定履歴
  - ①平成22年9月16日 「日本原子力学会保健物理・環境科学部会表彰に関する内規」として第22回保健物理・環境科学部会全体会議で審議・制定
  - ②平成23年9月21日 第23回保健物理・環境科学部会全体会議で改定
  - ③平成24年3月20日 第24回保健物理・環境科学部会全体会議で改定  
学会管理の内規に変更

平成 24 年 3 月 20 日

## 編集委員会の状況について

編集委員担当 森泉 純

### 1. 部会編集委員担当

森泉 純（名大）、塚田祥文（環境科学技術研）、山西弘城（近大）、横山須美（藤田保健衛生大）

### 2. 学会誌

・福島第一原子力発電所事故関連の記事で、保健物理・環境科学分野に関係する下記の記事が掲載された。

（10月号）

【時論】 「緊急被ばく医療から健康リスク評価へ-長崎から福島への4ヶ月」（松田尚樹）

【解説】 「福島原発事故と放射線健康リスク」（山下俊一）

「河川系における放射性核種の移行特性-チェルノブイリ事故研究等からの知見」  
（松永 武・ユーリ トカチェンコ）

「食品中の放射能濃度の簡易測定法について-NaI(Tl)シンチサーベイ測定における留意点は何か？」（佐々木道也）

「原子力の研究開発機関におけるメンタルヘルス-産業医としての関わりから」  
（友常祐介・松崎一葉）

（11月号）

【解説】 「海洋における人工放射性核種の動態-福島原発由来核種は海洋でどう動くか？」  
（日下部正志）

「日本人の食物摂取による実効線量評価-過去の調査結果からわかること」（真田哲也）

（12月号）

【解説】 「東京電力福島第一原子力発電所の事故による衣服の放射性汚染-汚染状況の測定と簡易除染法の検討」（中里一久・北 実・松田尚樹）

「福島第一原子力発電所事故時の災害初期対応の教訓-放射線情報の把握と活用に関して」（占部逸正）

「福島原発事故で汚染した野菜はどのくらい放射能除去できるのか?-日本放射線安全管理学会が汚染除去をテーマに研究報告」（柴 和弘）

（1月号）

【解説】 「チェルノブイリ原発事故：初期の混乱から国際機関のまとめの報告まで-WHO, IAEA などの10年、20年のまとめ、および25年目のUNSCEAR 2008」（長瀧重信）

（3月号）

【解説】 「航空機モニタリングによる東日本全域の空間線量率と放射性物質の沈着量調査」  
（鳥井建男・真田幸尚・杉田武志・田中 圭）

【私の主張】 「SPEEDIは今後どうあるべきか-福島第一原子力発電所事故を経験して」（茅野政道）  
（著者敬称略）

他にも除染、放射線教育、一般公衆とのコミュニケーションなどについての記事が多数ありますので、是非お目を通し下さい。

### 3. 論文誌

- ・「福島事故関連論文」の査読迅速対応
- ・2011年4月以降の第12分野論文投稿状況  
投稿受付数 計21(4~9月:11)  
事故関連論文 12(英文4 和文8)  
内、掲載否→再投稿→掲載2(1編)、掲載否1、審査中1  
通常論文 9(英文9)  
内、分野替え→掲載否→再投稿分野替え4(2編)、  
投稿撤回後再投稿審査中2(1編)、審査中1
- ・投稿分野区分および名称の修正(第12分野は変更無し)
- ・英文誌の学術雑誌出版社テイラー&フランシスによる共同出版開始。会員への無料公開の作業進行中。投稿の手引き(Instructions for Authors)の調整作業中。
- ・部会員の皆様におかれましては、査読委員の依頼の際には是非、ご協力をお願い致します。

### 4. 学会賞「論文賞」推薦

- ・H23年度分野推薦手続き完了。

以上